

# 生活創造空間

# にし

NISHI

～アンラシネを目指します～

第 19 号 2014 年 4 月 10 日発行



檸檬で収穫したラディッシュ

## 西区「後見的支援制度」が スタート！しました！！

誰でもふらっと寄れて相談出来る場所として戸部公園そばに「横浜障がい相談システムねくさす」が26年2月から開所しましたが、3月からは上記事業も「ねくさす」に入り他の相談事業とともに動きはじめました。

**それでは障害者後見的支援制度とは何ぞや？・・・。**

「住みなれた地域で、安心して暮らすことを願う障害のある人とその家族の思いを支援するために、後見的支援制度が平成22年度からスタートしました。」(パンフより)

**どんなことをしてくれるの？**

- ① 障がいのある人を支援している人や地域住民の方などが、制度に登録した人を日々の生活の中で気にかけてたり定期的な訪問をしながら、日常生活を見まもります。
- ② 障がいのある人とその家族の、将来の希望や漠然とした不安などの相談をお受けます。
- ③ 生涯にわたり障がいのある人によりそいながら、その人の願う地域での暮らしが実現できる方法を一緒に考えます。

**利用出来る人は？**

- ① 日常の見まもりを希望する障がいのある人（とその家族）
- ② 将来の生活について相談したい障がいのある人（とその家族）
- ③ 実施区（西区）に住んでいる18才以上の障がいのある人が登録対象です。

**費用はかかるの？**

この制度の利用には、費用はかかりません。（無料）

以上が骨子です。障害者権利条約が先日、批准されましたがこの中で重要なこととして障がいがある人のことを決めるに際し「障がい関連の決め事を障がい者ぬきに決めないこと」とあります。そのための重要な仕事（本人の思いを聞く）をこの事業は担うこととなります。

ゆっくりていねいにいいものにしていきます。よろしくお願いします。

（後見的支援事業 責任者 渡辺幹

夫）

## ～「横浜障がい相談システム **ねくさす**」が開所しました～

平成26年2月より、「横浜障がい相談システム ねくさす」が横浜市西区に開所しました（事務所場所は次頁地図をご覧ください）。

事業所名の「ねくさす」とは、「連携・つながり、絆」という意味を持ちます（ウルトラマンではな

いですよ)。西区はもちろんですが、横浜市全域で「つながり」を持ち、「連携」を強めていけるような相談システムを作り上げていきたい思いを事業所名に込めました。

今までガッツ・ビーと西で行っていた相談支援事業の一部を、相談室として外部に立ち上げたのは、より近い立場でアンテナを張り、地域課題と向き合えるように、また、より地域に密着した形で受け止めていくためです。

「ねくさす」では、委託相談事業、計画相談事業（平成 24 年 4 月～）、自立生活アシスタント事業（H24 年 10 月～）、後見的支援事業（平成 26 年 3 月～）の 4 事業を行っていますが、各事業の相談の枠にとらわれ過ぎず、地域の方のどんな相談でも受け止めます。それぞれの相談事業として担っていける部分を考え、支援の狭間を生まないように、1 事業で支えていくのではなく、事業や事業所の枠を飛び越え、連携をしながら地域で支える形を目指していきます。

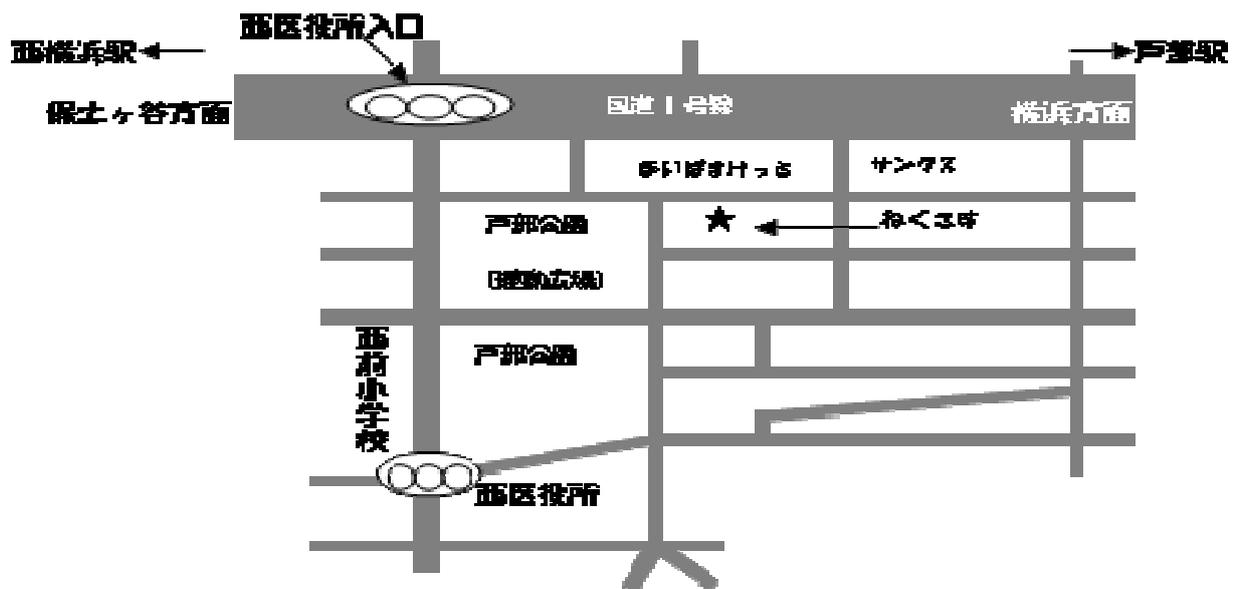
「どこに相談すればいいんだろう？」と悩んだときは、まずは「ねくさす」にお気軽にご相談ください。

### 案内地図

横浜障がい相談システム **ねくさす**

横浜市西区中央 1-18-22-103

TEL：045-594-7681



## にしうさ男のつぶやき・・・

### （西区スタイルカレッジ 1 期生、涙の卒業！）

「ハートを笑顔にする」カレッジ事業、『西区スタイルカレッジ』が3月14日に全6回の講義を終えました。11名の受講生の参加率が何と約9割という大人気カレッジ事業が終わってしまいました。桜美林大学・大溝先生を監修に迎え、個性ある講師陣（桜美林大学・谷内先生、武蔵野大学・本多先生、中村特別支援学校・佐塚校長、ハートフルワーク柏・野村さん）による、少人数で皆が一緒に参加できるゼミ形式のカレッジが受講生には好評だったようです。また、一つの事業者だけでは完結しない、「横のつながり」を大切にした形も好評だった要因の一つです。実際に他事業所の受講生同士での集まりなんかも行われていたようです。

講義は、

- ・ 地域（西区）の文化を学ぼう（11名中11名参加）
- ・ 主観を学ぼう①（11名中8名参加）
- ・ 主観を学ぼう②（11名中10名参加）
- ・ 障害論（障がいとは何か？）を学ぼう①（11名中11名参加）
- ・ 障害論（障がいとは何か？）を学ぼう②（11名中9名参加）
- ・ 地域自立支援協議会を学ぼう（11名中10名参加）



というカリキュラムを1時間30分の中で講義・ディスカッションを交えながら教えていただきました。講義のほか、コアメンバー（自立支援協議会事務局メンバー）がメンター\*1となり、「メンター制度」\*2を導入して、先輩職員と受講生との交流も実施しました。諸事連絡や激励に受講生の事業所を尋ねることで、普段の業務(業務)が大変な様子や自分の業務(支援)に誇りを持っていることも感じ取れました。毎月第3金曜日18時30分からの授業は、週の最終日で最も疲れきっている受講生もいたかと思いますが、自分自身を磨いていきたいという支援に対する意識の高さを感じました。

25年度は、西区地域自立支援協議会の部会・委員会・会議に参加している人だけでない新たな西区の「つながり」の可能性を見出せたカレッジでした。

26年度は、25年度の反省・要望も踏まえながら新たな「つながり」を創り、点から線、その線を様々な角度で織りなして面を超えて立体的に当事者を支えていく仕組みを創っていきたいですね。

\*1メンター：「良き指導者」「優れた助言者」「恩師」の意。自分自身の仕事やキャリアの手本となり、助言・指導をしてくれる人材のことを指します。

\*2メンター制度：人材育成の手法としても用いられており、組織として関与する上司や役職者ではなく、関与度の低い他部門の人材や先輩(役職の無い人材)をメンターとして任命し、日頃の悩み相談やキャリアパスの見本となる人材を割り当てることがあります。

(うさ男)

## 屋上広場「檸檬～れもん～」への思い

やっとやっと屋上に庭園？が出来ました。本当は開所と同時に出来る予定だったのですがこの生活創造空間にしが建設の時 巷では北京オリンピックの建設ラッシュ。資材高騰のあおりを受けて屋上までお金がまわらなかったのです。それから毎年のように年賀福祉からお金を頂けないかと応募してきたのですが…。残念ながら受からず…。

このままでは屋上庭園は出来ないと判断し、県央福祉会、横浜共生会の2法人が清水の舞台から飛び降りてなんとか「屋上庭園 檸檬(れもん)」が完成しました。何故「檸檬」という名前になったと思いますか。答えは屋上に「檸檬」があるからです。みなさん何処にあるでしょうか？みつけた人はとっても「偉大」な人となります(一部からささやかに讃えられます)。そして試験的にガッツ・エヌクラブが野菜を植えたところ、「本当に」おいしいブロッコリーと菜ばなが収穫され、湯搔いて食べてみました。なんにもしないのに「とっても」おいしかったです。これで心と手を加えればどれくらいおいしくなるか。それとも何もしないのが良かったのか。育つ・育てるって本当に不思議なことだと改めて感じています。

4月から外部の団体も加わり家庭菜園スペースは一步前にいきます。ちょっと先にはいろんな方々が本当にのんびり出来るいい空間が出来るといいなあと思っています。

(れもん担当 かじいもとじ)

## 「にぎわい&にしよこ寄席」其の3

またまた、やって参りました「にしよこ&にぎわい寄席」。生活創造空間にしを舞台に繰り広げられるスペクタクル現代寄席。そんなたいそうなことはないのかもしれませんが、いやいやたいそうな席亭です。

2月の週末毎に訪れた冬将軍、さらに雪雲と一緒に運び込んでしまったりして、十数年に一度、観測史上初めてなどとまだまだ軒下には雪が残っていました。

その翌週の土曜日、この日は逆転、おだやかな日となり一步一步春に近づいている暖かな風を感じられる午後となりました。

演者の方は、夏丸師匠（1回目から連続出演）、春雨や風子師匠のお二人、聞いたところによればお二人ともに、最近は新進気鋭の嘶家さんということで、御見それするやら、聞き惚れるやら。

そんな「にしよこ&にぎわい寄席」を楽しみにして下さる地域の方々も増え、ご予約いただいている方もいらっしやりで、会場の50席はすぐに埋まり、椅子の追加が必要じゃないのなんてうれしい思いもしたりして。

夏丸さんや風子さんの熱狂的な(?)ファンの方々も増えてきているようで、いつものことですが、会場は笑いの渦。

こんなふれあいの場所があることがうれしくて、いつまでも続けられたらいいのになんて思う次第でございます。

ということで、次回も乞うご期待です。

(松之家 ふくかん)



腹黒日記～黒々なるままに～

☆愛すべき男よ、永遠に☆

(いつもはグローバルな文章ですが、今回に限り個人的な文章になることをご容赦ください)

春は出会いと別れの季節だ。この春、長年に渡り、西区の地域福祉、障がい福祉を推進してきた何人かの英雄たちが、この地を去る。全ての英雄たちについて賛辞と感謝を述べたい所だが、私に与えられているスペースはあまりに少ない。そこで、今号では、「さる」繋がり、愛すべき男O塚氏について触れたい。

この愛すべき男は、某ケアプラザで勤務した。得てして、障がい福祉分野と介護、高齢分野では連携の重要性をお互い意識しつつも、なかなか本来業務の渦の中でそれが叶わないことが一般的だ。だがその男はやすやすとその渦を飛び越える。西区地域自立支援協議会には開設当初より中心人物として参加し、担当者会議の中では、コアメンバーとそれ以外の参加者の温度差について述べた「O塚発言」が今も巷では伝説となっている。また、余暇部会の冬余暇企画「餅つき」では、かるた職人(かるた大会を盛り上げる司会者)として多くのご利用者を楽しませてくれた。この男を今、流行りのゴーストやコピペで埋めることはできない。新しい仲間をお迎えし、新しい西区地域自立支援協議会となっていく。愛すべき男よ、永遠に。(腹ぐろーる)

生活創造空間にし URL : <http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活創造空間にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・ビーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)

